

第88回日本皮膚科学会東京支部 学術大会ハイライト

(2024年11月16・17日)

※京王プラザホテルとWeb配信のハイブリッド開催

山上 淳

東京女子医科大学皮膚科准教授

はじめに

第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会は、東京女子医科大学皮膚科の石黒直子教授を会長として、2024年11月16日・17日に新宿区の京王プラザホテルで開催されました(図)。全国からオンラインも含めて約2,300名の皆様にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。事務局長として、学術大会にご尽力くださったすべての方々に深く感謝を申し上げます。

テーマ

今回の学術大会のテーマである「みえないものをみる～想像を超えた皮膚を取り巻く世界へ&未来へ～」に込められた3つの意味を、石黒会長は冒頭の挨拶で述べられました。まず1つめは、日ごろよくみている、あるいは同じようにみえる皮膚症状でも、実際には多くの鑑別診断があり、正確に診断するためのプランを立てる皮膚科医の醍醐味を味わっていただくこと。2つめは、近年の科学と技術の進歩によって目にはみえない細菌叢などの網羅的な解析が可能になってきたが、これらのミク



図 学会1日目の記念集合写真

気持ちはすでに、この後の懇親会に向かっています。

ロの世界と皮膚疾患の病態や病因との関連性をクローズアップしたこと。3つめは、いまはまだみえない皮膚科診療における未来像を感じ取っていたこと。これらの意味が込められたテーマの「みえないものをみる」に沿って企画された多くのシンポジウムや講演は、参加いただいた日本皮膚科学会会員の皆様にとって有意義であったと信じております。

プログラム

東京女子医科大学らしく、女性医師を応援するプログラムも目立ちました。招待講演では、『女性の品格』の著者でもある昭和女子大学総長の坂東眞理子先生に「女性医師が社会から期待されること」をテーマにお話しいただきました。女性たちが医師という専門職を遂行するために、知識とスキルを維持し続けるだけでなく、コミュニティ（地域、学会、医師会など）での活動を通じて、人間としての信念を持って多面的で豊かな人生を生きてほしい、という強い期待が伝わってきました。また特別講演では、当学の解剖学（顕微解剖・形態形成学分野）教授の石津綾子先生に「女性医師の海外留学と研究キャリア #shout-out to all women in medical research」と題して、ご自身の研究内容と海外留学の経験を中心にお話しいただき、女性医師・研究者に熱いエールが送られました。

もう1つの招待講演では、順天堂大学病院管理学教授で東京都医師会の医療支援担当理事でもある小林弘幸先生に「健康から学ぶ医療におけるマネジメント」についてお話しいただきました。健康を守るためにすべきことは何か、病気にならないため自発的に行っていくべきことは何かも含めて、医療におけるマネジメント（リスク・倫理）について理解が深められたと思います。

未来を感じられる特別講演として、当学先端生命医科学研究所教授の正宗賢先生に「次世代医療：AIがもたらす変革」をテーマにご講演いただきました。とくに外科領域で用いられている手術用ロボットとスマート治療室の研究を紹介いただくとともに、医工連携の重要性について、工学と医学の融合

が新しい治療法や技術の開発を促進する具体的な事例を示してくださり、AI技術がもたらす未来の医療ビジョンを共有いただきました。

会長特別教育講演として、兵庫医科大学皮膚科教授の夏秋優先生に「虫による皮膚疾患の世界と未来」、東京女子医科大学足立医療センター皮膚科前教授の田中勝先生に「見えないものを見る～ダーモスコピー像から病理像を想像する」をテーマにお話しいただき、いずれの会場も若手を中心とした多数の聴講者であふれていました。さらに、働き方改革、女性リーダー育成、感染症、近赤外線、皮膚筋炎、血管炎、顔面皮膚炎についてのシンポジウムが開かれるとともに、重要な皮膚疾患に関する17の教育講演が行われました。これらのプログラムが複数の会場で同時進行していたので、すべてを聴講することができなかったのが私にはとても残念でした。

おわりに

懇親会では、会長校セレクトのワインを楽しんでいただくこともでき、会員の皆様には交流を深めていただけたのではないのでしょうか。「学会に参加してよかった」「楽しい学会だった」と思ってくださった方が少しでもいらっしゃれば、私としても非常に嬉しいです。座長および演者を務めてくださった皆様、参加してくださった皆様、そして学会事務局の皆様、学術大会に関わってくださったすべての皆様、本当にどうもありがとうございました！